資料３

四国中央市
第２次ボランティア市民活動推進計画

四国中央市

平成26年3月

第６章　ボランティア市民活動センターの機能強化

～市民のための情報発信・交流拠点～

６－１　センターの重要性　～気軽に集い活動を広げよう～

意識調査及び団体調査では、ボランティア活動を活発にするためには、「活動を紹介する窓口が必要」という声が数多く寄せられました。また、ボランティア団体が、組織を運営し活動を継続していく上で、さまざまな課題を抱えていることが分かりました。

センターの開設以来、ボランティア活動の推進が始まり、多くの市民が活発な活動を続けていますが、センターは、昨今の社会情勢に適応出来るのかという基本的な視点を踏まえつつ、今後のあり方や取り組みの方向性を再度見直し、機能強化を図る必要があります。

６－２　基本的な機能や事業　～人と活動をつなげて広げます～

現在、センターは、総合的な活動の推進拠点として、さまざまな機能が整備されており、今後は、より一層の強化策を講じる必要があります。

（1）情報の収集と提供

ボランティア活動に関する情報、社会資源、行政情報、登録団体の情報などを収集しており、市民に役立つ情報を提供・発信しており、今後は、更なる充実が求められます。

（2）案内・相談

ボランティアコーディネーターを配置した窓口を設け、ボランティア団体やＮＰＯ法人に関するさまざまな案内や相談を行っていますが、特に、今後は、次世代を担う中高生などの相談を強化する必要があります。

（3）広報・啓発

情報紙の発行やホームページを開設し、ボランティアやＮＰＯ法人についての広報・啓発に努めていますが、今後は、近年の社会情勢を考え、SNS などの活用も研究します。

【用語解説】

■ SNS とは…

ソーシャルネットワーキングサービスを略したもので、日記やメッセージなどを通じて友人や知人、共通の趣味を持つ人たちとの交流を目的としたサービスの総称です。

（4）人材の育成・養成

ボランティア活動をレベルアップしていくための学習機会の提供などに取り組んでいますが、今後は、リーダー及びコーディネーターの育成に取り組むことが求められます。

（5）交流の連携（ネットワーク）の促進

ボランティア団体相互の交流及び、情報交換出来る場所や機会の提供、また、相互の活動を結ぶコーディネートを行っており、今後は、ＮＰＯ法人、各種団体、地域、企業、行政など多様な主体のマッチングを強化していく必要があります。

（6）調査・研究

ボランティアやＮＰＯ法人の活動に関する課題や推進策に関する調査･研究を行っており、今後は、更に情報収集を行い、事業に反映させることが望まれます。

（7）場所・設備の提供

日頃のボランティア活動を支えていくために、スペースや機器などを提供しており、今後は、更なる整備が求められます。

ボランティアコーディネーターの重要性

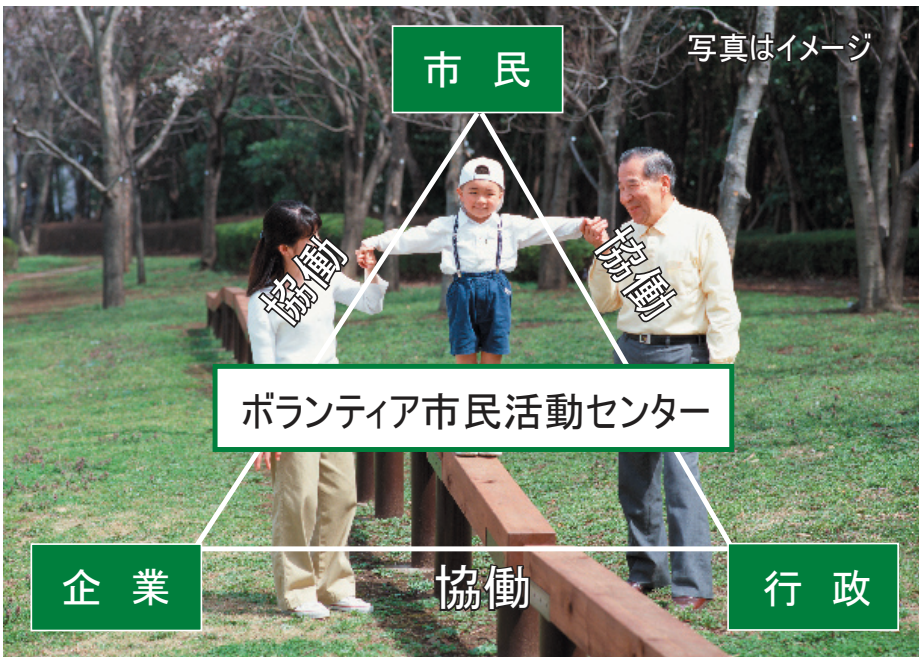
～コーディネーターは推進のキーパーソン～

意識調査の結果を見ても、ボランティア活動に対する関心は高いが、実際やっている人は少ないという現状があります。きっかけが見つからず踏み出せないという人もいます。コーディネーターは、そのような人たちへの手助けをし、次へとつないでいく大切な仕事を行う人です。

そのため、専門的で幅広い知識や経験が求められますので、スキルアップを重ねて人材を養成し、継続的に専任のコーディネーターを複数配置することが重要です。また、市民や地域のニーズを集め、市民と行政のパートナーシップを築きながら、協働体制を推進していくための結節点としての働きも期待されます。

６－３　センターの目指す方向性　～幸せに生きていくためのまちづくり～

センターは、市民が幸せに暮らしていくため、地域課題の解決や、まちづくり活動の全般を担っていくことが求められますので、ボランティア団体やＮＰＯ法人などの社会貢献活動をはじめとする、さまざまな公益的な活動を支援するとともに、各種団体やさまざまなコミュニティのネットワーク化を促進し、市民、企業、行政の協働を推進する拠点としての機能を強化する必要があります。



６－４　設置場所・設置形態　～みんなのほっとステーション～

センターは、現在、市有施設の空き状況などの理由から、既存施設である伊予三島商工会館内を有効的に活用し運営していますが、現状では、センターの機能強化を図っていくことは、困難であると判断されます。

今後、センターは、市民の交流促進拠点として、誰もが利用でき、利用しやすい場所に設置することが効果的であり、市民参画を促進し、市民と行政の協働を進めていくための拠点として機能していくためには、市内中心部で、交通のアクセスが良く、十分な駐車場及び会議室などのスペースを備えた場所に設置することが望まれます。

また、人や情報の交流拠点として身近にあることが理想であることから、地域のニーズや利用状況に応じてセンターの出先機関も検討します。

四国中央市ボランティア市民活動センター

６－５　施設の概要　～ユニバーサルなデザイン～

現在、センターは、次のような機能をおおむね備えていますが、今後、機能強化を図る上では、ユニバーサルデザインを意識した整備が求められます。

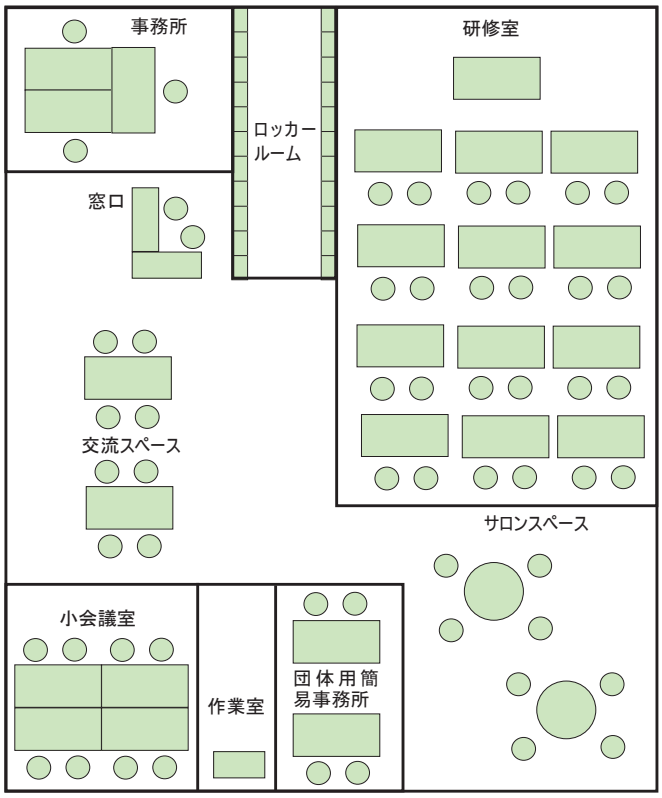
～センターの理想的な機能～

（１）窓口、事務局事務室
（２）会議室、研修室
（３）団体用簡易事務室（スペース）… パソコン、電話、ファクスなどを備える。
（４）作業室（スペース、コーナー）… 印刷機や複写機、断裁機などを備える。
（５）交流スペース（フリースペース）
（６）情報提供コーナー…掲示板、パソコン（インターネット）などを備える。
（７）図書･資料コーナー（学習室）… 専門的な図書･資料の閲覧や貸し出しが可能
（８）ロッカー、メールボックス

～ユニバーサルデザインを意識した整備～

ユニバーサルデザインとは、障がい者や高齢者を含む出来る限り多くの人が利用出来るように最初から意識して、機器、建築、身のまわりの生活空間などをデザインすることです。近年、さまざまな分野において、その考えを取り入れる事例が増えつつあるため、センターの整備を行う上では、この考え方は特に重要となります。

【センターのイメージ図（理想像）】



６－６　管理と運営　～みんなで支えよう～

（1）運営主体

センターの運営は、現在、民間の特性と、ボランティア支援の実績やノウハウを持つ（社）四国中央市社会福祉協議会（以下、「社会福祉協議会」という。）に委ねています。

将来的には、先例地などの状況から、ＮＰＯ法人などの民間団体による運営が望ましいと考えますので、センターの運営を委ねることが出来るＮＰＯ法人を、行政、センター、社会福祉協議会の協働により、発掘、また、育成・支援を行っていくことが、今後の重要な課題です。

また、センターの運営趣旨を生かすためには、市民にとって親しめる市民スタッフにより運営することが望まれるため、運営に係るボランティアの参加を募るなどの方法を検討します。

（2）開館時間や利用条件

センターは、誰でも利用しやすいように開館時間を延長したり、設備や備品の利用提供にあたっては、個人や財政的に小規模なグループでも利用しやすい条件を整備し、本市のボランティア団体などの状況に合わせて、効率的かつ有効な運営に努めます。

（3）推進協議会及び運営審議会によるサポート

センターとしての機能について、市民の声を反映し、施策や事業の実施の検討、また、管理･運営面の評価、支援制度に関する審査などを推進協議会で行います。

また、登録団体の代表者などが集い、センターの方向性を話し合う、運営審議会などの設置も検討します。

（4）誰もが知り、 市民に愛されるセンター

センターは、今後、益々重要な役割を果たすこととなりますが、意識調査では８０．１％の人が「知らない」と答えており、認知度が低い状況です。このようなことから、市民の誰もが知り、市民に親しまれ、支えられるセンターとなるため、市民への公募により愛称を設けるなど、情報発信に努めます。

また､PR 活動の強化として、現在、センターのホームページなどに使用されているイメージキャラクターの更なる活用に取り組むなど、工夫を凝らす必要があります。